

世界に目を向け、未来を見つめる。

2023.AUTUMN

# VOICE OF LIFE

[ボイス・オブ・ライフ]

# 06

## Take Free

COVER PHOTO

バク・スングムさんの息子は軍による攻撃の後遺症で亡くなった。「一人暮らしだった息子には冷蔵庫がなく、キムチがすぐに酸っぱくなってしまったんです。本当はこの白菜で、新鮮なキムチを食べさせたかった」。民主化運動で家族を亡くしたり、自身も被害を受けた女性たちの憩いの場である「5月母の家」にて、自身の描いた絵と共に。



### 光州民主化運動と 女性たち いまだ続く真相究明

取材／安田菜津紀・佐藤慧

 Dialogue for People



## 日帝軍国主義の中で 育てられた独裁者

1979年10月、独裁体制を敷いた韓国・朴正熙(パク・チョンヒ)大統領が暗殺され、16年に渡る支配が突如終焉を迎えた。これで時代が変わるだろうと、民主化を求める市民たちは喜びの声をあげた。ところが、ほどなくして全斗煥(チョン・ドゥファン)らがクーデターを起こし、新たな軍部独裁体制が誕生してしまう。

翌1980年5月、韓国南部の光州では、抗議の声をあげる市民たちが、軍による激しい弾圧・虐殺を受けた。10日間の間に少なくとも165人もの市民が殺されたこの事件は、「光州民主化運動」、あるいは、戒厳軍による市民への暴力・虐殺が始まった5月18日にちなみ、「5・18抗争」とも呼ばれている。

## いまだ続く

## 真相究明

となった盧泰愚(ノ・テウ)も同期だった。朴正熙もまた陸軍士官学校で学び、閔東軍の陸軍中尉として軍務についていた。

## それは明らかに 「誤射」ではなかった

道庁前広場から車を走らせること30分、瑞々しい芝生の広がる小高い丘の斜面に、膝丈ほどの墓石と土饅頭が隙間なく並んでいる。その一角で、「5・18民主化記録館」でガイドを務めるキム・ヒヤンソンさんが静かに語りだした。「ここは、民主化運動の最中に、もしくはそれに関連して亡くなった人々のお墓です」

その一群の墓石には顔写真が

# VOICE OF LIFE

# 光州民主化運動と 女性たち

取材

### 安田 菜津紀

Natsuki Yasuda

中東、東南アジア、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地の記録を続ける。TV、ラジオ番組などにもレギュラー出演中。

### 佐藤 慧

Kei Sato

アフリカや中東、東ティモール、自然災害の被災地などを取材。世界を変えるのはシステムではなく人間の精神的な成長であると信じ、紛争、貧困の問題、人間の思想とその可能性を追う。



その5月18日朝、全南大学封鎖に抗議する学生らのデモに対し、戒厳軍は暴力による鎮圧を試みた。デモは道庁前広場に続く大通り、錦南路(クムナムロ)など、市内の中心で継続されたが、21日、軍はついに市民に対し大規模発砲を行う。人々の悲痛な叫び声と、真っ赤な鮮血が大通りに飛び散った。それからの数日、光州の市民たちは世界から隔絶され、助けを求めることもできないまま、残酷な暴力に晒され、そして殺されていった。当時の最高責任者であったはずの全斗煥は、最後までその責任を認めぬまま、2021年にこの世を去っている。

光州民主化運動に詳しい全南大学のキム・ヒソン教授は、「光州で起きた市民の虐殺は、韓国の国家暴力の話に留まらない」と語る。

「全斗煥は日帝の軍国主義の中で育てられました。彼のような勢力が、政治的、経済的利益を得ている限り、彼に対しての正当な断罪は難しいでしょう」

全斗煥は日本植民地下の慶尚道で生まれ、陸軍士官学校を出ている。全斗煥に続いて大統領力により命を奪われ、墓地に埋葬されることもなく、人知れずどこかで眠り続けているのだ。

「民主化運動の指導者やリーダーたちが手配されたり隠れたりしている中で、真っ先に抵抗したのは女性たちでした。報道が統制されていた当時は、何が起きているのかすぐには分からず、情報が重要でした。彼女たちは緑豆書店とYWCA(キリスト教精神に基づいた平和運動体)を拠点として、いつ何があったかを記録し、それを基に、市民たちがどんな行動を起こすべきか、作戦を練ったのです」

包囲され、怒りが渦巻く街の中で、日常が壊れ、銃を持った市民たちが理性を失えば、全斗煥の狙い通り「暴動」が起きかねない。そんな一触即発の状況だった。

「そこで女性たちはマイクを握り、街頭放送をおこなったのです。血が足りません、献血をしましょう、もう一度広場に集まりましょう、対策を立て、交渉をしましょう、と」

市民たちが集った広場では、誰でもオープンマイクで語る事ができた。そこでマイクを握った多くが女性だったという。

【左】市民が集った旧道庁前広場。庁舎に立てこもった市民も次々と殺された。【右】望月洞墓地の傍らで光州民主化運動について説明するキム・ヒヤンソンさん。



こうした女性たちの役割に光が当たってこなかったのは、市民の権利が獲得される歴史の中で、女性たちはその「市民」の中に含まれていなかったからだとヒヤンソンさんは指摘する。

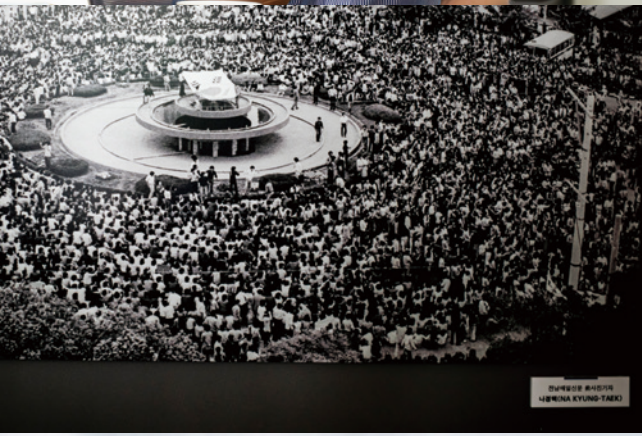
「女性たちが同じ立場、同じ権利で扱われていなかったからこそ、光州民主化運動の中で、女性たちはその役割の分だけの評価をされてこなかったのだと考えます」

## 終わりを 迎えていない事件

見過ごされてきた被害も大きい。近年ようやく、戒厳軍・捜査官から女性たちが受けた被害が明るみになり、2018年11月、韓国政府が謝罪するに至った。被害者の中には、10代の少女や妊婦も含まれていた。

その後光州民主化運動は、粘り強い市民の声や運動の後押しを受け、ユネスコによる「人権分野における世界記憶遺産」に登録されることとなるが、未だ当時の被害を語れない人々も多い。

こうした「終わりを迎えていない事件」に、今求められていることは何だろうか。キム・ヒヤンソン



【上】全南大学にてキム・ヒソン教授とお話を伺う。【中】オープンマイクで語らう市民たち。5・18民主化運動記念館の展示より。【下】国立5・18民主義地の像の中には、拡声器で呼びかける女性の姿がある。



ヒソン教授はこう語る。

「日本の植民地支配の加害について、『いつまで反省すればいいのか』という声があるように、誰が、何を、どこまで、いつまで……というのは常に論争になる問題です。しかし形式的な謝罪に終始しては、より深く被害者を傷つけるだけでしょう。加害者が、単に自分の行為について告白するだけではなく、被害者が受けた苦痛について、加害者自らの口で語り、絶えず反省する必要があります」

過去に起きたことだけではなく、今に続く苦しみにしても加害者は向き合わなければいけないと、キム教授は続ける。

「加害者が赦しを乞えば被害者



軍用ヘリによる機銃掃射もあったことが後の調査でわかっている。旧道庁舎前に建つ「全日ビル245」の展示より。

は受け入れなければならない」という雰囲気がある。どこか韓国社会にもあるように思います。けれどそれは本当に正しいことなのでしょうか？ その謝罪を受け入れるか、受け入れないか——赦すか赦さないかを決めるのは、被害を受けた人々にこそ与えられた権利だと思います」

光州での真相究明と和解は、常に歴史歪曲の狭間で揺れ動いてきた。「過去の清算」という言葉で、顧みるべきことを顧みないツケを未来世代に先送りしてはいないだろうか。こうした構図は日本の侵略戦争の歴史と地続きだ。ハリボテの平和ではなく、真に個々の尊厳が守られる社会のために、今こそ過去の加害と向き合っていかなければならない。

## D4Pに新ジャーナリストが!

A NEW JOURNALIST HAS JOINED.



田中 えり

Eri Tanaka

みなさま、こんにちは!初めまして。今年3月にD4Pに入職しました、田中えりと申します。D4Pに入る前は栃木県の地方紙・下野新聞社で8年ほど、記者をしていました。新聞社で働く中で、その日その日のいわゆる“新鮮な”ニュースを届けることの重要性やマスメディアだからこそできる伝え方について学びました。ですが、その一方で、センセーショナルに感じられる見出し、描き方など「新聞記事らしさ」に引張られ、取材対象者の方々の尊厳を守った取材・報道ができていないのではないか、と自分の仕事に疑問を覚える場面が徐々に多くなっていきました。そして現在、ご縁あってD4Pの一員として「伝える」活動を続けさせていただいています。今後もこれらの関連取材をはじめ、私自身の出身地・福島に関わる取材などにも力を入れていきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします!

執筆記事は  
D4Pの  
WEBサイト  
から

田中えり執筆記事



ジャーナリストの「惨事ストレス」の現状と必要なケア

筑波大学名誉教授・松井豊氏インタビュー



平和について「一緒に考えたい」

生まれ育った広島での記憶のかけらが原点に



「原子力発電の安全性を問う」

50年前の福島・双葉高校生からのメッセージ



## 編集後記

西田 朋世 / D4P広報部



以前韓国の書店を訪れました。あらゆるジャンル・言語の書籍が並んでいるだけでなく、学習スペースやアートギャラリーなども併設されており、店内を回っているだけでもとても楽しい空間でした。書籍の電子化が進み、書店の経営が厳しい中、実は日本でも個人経営のユニークな書店が増えてきているのだとか。VOICE OF LIFEは全国のご縁があったカフェや書店でも配布いただいております。配架先は随時募集中ですので、おすすめのお店があればぜひご連絡ください!

Dialogue for People



NPO法人Dialogue for People (ダイアローグ フォー ピーブル/D4P)

国内外さまざまな地域で社会課題の渦中にある人々を取材し、写真や文章、映像などさまざまな表現を通じて、「伝える」ことを主軸に活動するメディアNPOです。どこか遠くの問題に思ってしまう出来事について、誰もが考え、自分の役割を見つける機会を創造し、社会課題の解決につながるきっかけを生み出していきます。

VOICE OF LIFE バックナンバーもWEBで見られます!

d4p

検索

https://d4p.world



各国での取材をYoutubeで配信!



安田菜津紀と佐藤慧が、気になるニュースや出来事をラジオ形式で配信。ゲストを迎える回ではインタビューを交えながら、様々なテーマを深掘りしていきます。

D4P YouTube Channel YouTubeで検索!

d4p

検索

